

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年4月12日現在

機関番号：34320

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530626

研究課題名（和文） 社会福祉教育のナレッジデザインへの利用者の参画とコミュニティ形成に関わる研究

研究課題名（英文） Knowledge design for the user involvement training of the social work professional education and the community forming

研究代表者

吉村 夕里（YOSHIMURA YURI）

京都文教大学・臨床心理学部・教授

研究者番号：50388211

研究成果の概要（和文）：身体障害、精神障害、発達障害、認知症等についての利用者参画の視覚教材を開発するとともに、以上の視覚教材を活用した利用者参画の授業や研修会を実施した。また、障害当事者が継続参加する授業をカリキュラムに位置づけて実施し、学生と障害当事者の相互作用分析を行うとともに、教育における利用者の権利やリソースについての考察を行った。なお、以上の成果については学术论文や学会発表および学会での自主シンポジウムの開催等をおして公開した。

研究成果の概要（英文）：

This project has developed visual aids for the education and training of human service professionals with the involvement of service users; people with physical disabilities, mental health problems, developmental disabilities and dementia. These visual aids were utilized in the lecturers and training workshops at the university and elsewhere for the training of students and practitioners. The program with the continuous involvement of service users has been put in the regular curriculum at the university, and analysis of the interaction between the participating students and people with disabilities and the rights of service users and the resources in the education was performed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学、社会福祉学

キーワード：社会福祉教育、利用者参画、ナレッジデザイン、コミュニティ形成、専門職養成教育、状況的学習

1. 研究開始当初の背景

社会福祉教育への利用者参画は日本においては、総じて受動的な段階に留まっており、利用者の参画も身体障害に限定されがちである。そこで本研究においては様々な障害当事者やケアラーたちの社会福祉教育への参画を図るとともに、教育における利用者の役割を分析すること、利用者が福祉サービスや養成教育に参画する権利について検討することを目的とした。

2. 研究の目的

研究目的は、保健・医療・福祉サービスの利用者(以下:利用者)が参画する社会福祉教育のナレッジデザインを開発すること、開発したデザインを活用してインタープロフェッショナル教育を実施するための福祉コミュニティを形成することである。

3. 研究の方法

利用者参画のプロジェクトを編成し、社会福祉教育のロールプレイやワークショップのための映像教材を開発するとともに、開発した映像教材を使用した利用者参画の社会福祉教育を体系的に実施した。また、プロジェクトの拡充を図り、平成 22 年度には本プロジェクトと大学内の実習教育の拠点として「障害交流センター」を設置した。設置と同時に、精神科病院のスタッフらと協働し、精神障害当事者と学生との学内交流事業を試行的に開始し、平成 23 年度からは身体障害及び精神障害当事者が参画する学内実習教育としてカリキュラムに位置づけた。一方、従来からの利用者参画のプロジェクトには、精神障害や身体障害や若年性認知症の当事者とその家族、発達障害当事者の家族らが参加するようになり、学生や地域住民を対象とした利用者参画の社会福祉教育や医療福祉サービス従事者への教育研修の拡充が図れるようにした。

4. 研究成果

平成 21 年から 22 年度にかけては、利用者参画の「教材開発」と「教育研修実施」のスパイラルアップを図る研究を遂行するために、既に開発した教材を用いて、当事者参画の社会福祉専門教育を実施すると同時に、福祉サービス利用者が提供したスクリプトに基づいてさらなる教材を開発した。開発した教材は精神科デイケア場面や家族療法場面に関する視覚教材であり、いずれもサービス現場から提供を受けたスクリプトをもとに作成してのものである。以上の教材を活用して学生、医療福祉サービス従事者、住民向けの利用者参画の社会福祉教育を継続実施すると同時に、教材開発から教育・研修の実施に至るプロセスについて参加者間の相互作用

分析を行い、その成果の一部を学会や論文発表により公表した。また、英国における利用者参加の社会福祉教育のデータ収集を行い、現状と課題を分析すると同時に、日本の現状との比較検討を行った。

平成 23 年度からは、より広範囲の対象に利用者参画の社会福祉教育や教育研修を実施した。具体的には、認知症の当事者やケアラー、介護職が参画する映像教材づくりと事例検討会の実施、教育現場における保護者と教員の葛藤場面についての映像化教材づくりと教育研修の実施、サービス提供場面における「利用者/専門職」間の葛藤を、DVD 教材と障害当事者の語りに基づいて参加者全員が再構成と再体験を行うプレイバックシアター方式での研修会の実施等である。また、既に開発した身体障害、精神障害、発達障害に関わる DVD 教材を用いて、当事者参画の社会福祉教育や事例検討会や教育研修を広範囲の対象者(学生・研究者・医療福祉サービス従事者・地域住民)に実施することによって、当事者参加のインタープロフェッショナル教育の充実を図った。以上の教育・研修の実施に至るプロセスについては平成 21 年度に引き続き参加者間の相互作用分析を行うとともに、福祉コミュニティ形成過程を明らかにする目的で、障害児の母親や地域住民、療育者、認知症当事者とそのケアラー等を対象としたインタビュー調査を行い、その成果の一部を学会や論文発表により公表した。さらに、近畿圏の福祉専門職の養成校における利用者参画の教育の実態を明らかにする目的でアンケート調査を実施するとともに、前年度に引き続き英国における利用者参加の社会福祉教育のデータ収集と分析を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 13 件)

吉村夕里、当事者が参画する社会福祉専門教育(その 4) 精神障害当事者が継続参加する授業、京都文教大学 臨床心理学部研究報告、査読有、第 4 集、2012、3-28

吉村夕里他、シンポジウム実施報告「ごみ屋敷の住人たち 専門職が地域活動で出会う人々 (京都文教大学人権委員会 & 京都文教短期大学人権委員会)、京都文教大学 心理社会的支援研究、査読無、第 2 集、2012、111-136

佐藤安子・吉村夕里、報告「教師と子どものためのメンタルケア」研修の実際 教員免許状更新講習の取組から、京都文教大学 心理社会的支援研究、査読無、

第2集、2012、103-109

所めぐみ、ソーシャルワーカー養成教育における評価についての研究：英国当事者参加教育における評価研究のレビュー、佛教大学 福祉教育開発センター紀要、査読無、第9号、2012、171-181

吉村夕里、当事者が参画する社会福祉専門教育(その3) 認知症高齢者との対話、京都文教大学 臨床心理学部研究報告、査読有、第3集、2011、45-68

吉村夕里、表現活動をアフォードする環境と姿勢 ~運動障害をもつ幼児の人物描画の変容~、京都文教大学 心理社会的支援研究、査読無、創刊号、2011、13-28

吉村夕里、精神障害当事者が参画する社会福祉専門教育：精神医療ユーザーとともに行う精神科診療面接場面の質的分析、生存学、依頼原稿、VOL.3、2011、210-239

吉村夕里、ニュータウンにおける障害をもつ子どもと母親たちのコミュニティ形成 ~就学前から就学期のソーシャルワークの課題、京都文教大学人間学研究所人間学研究、査読有、Vol.11、2011、29-54

吉村夕里、当事者が参画する社会福祉専門教育(その2) ~車椅子使用者と介助者と車椅子が存在する場面~、京都文教大学 臨床心理学部研究報告、査読有、第2集、2010、39-64

吉村夕里、臨床心理学部の視点から、「現場」を通じた相互変容をめざせ。京都文教大学現場主義教育レポート。スパイラルアップ Spiral Up VOL.1 ~学生の可能性を育て、地域と大学をつなぐしくみ~、文部科学省平成19年度「特色ある大学教育プログラム(特色GP)」「現場主義教育充実のための教育実践 ~地域と結ぶフィールドワーク教育~」報告書、特色GP委員会監修、2010、20-23

所めぐみ、ソーシャルワーカー養成教育における「当事者」とのパートナーシップ英国のとりくみから見える課題、佛教大学 福祉教育開発センター紀要、査読無、第7号、2010、93-103

所めぐみ、地域福祉実習教育のとりくみから学ぶ(特集 社会福祉士新カリキュラムにおける地域福祉の教育について)、日本の地域福祉、査読有、第23巻、2010、24-61

吉村夕里、当事者が参画する社会福祉専門教育(その1) ~精神医療ユーザーと協働する視覚教材づくり~、京都文教大学 臨床心理学部研究報告、査読有、第1集、2009、21-40

〔学会発表〕(計7件)

栄セツコ・吉村夕里・黒岡和容・菊池彰倫・清水由香・芦田邦子、精神障害者の

学校教育への参画の有効性 ~その可能性をさまざまな立場から検証する~、日本精神障害者リハビリテーション学会第19回京都学会(自主シンポジウム)、2011年11月13日、佛教大学

吉村夕里、実践現場と教育現場が協働する実習教育のナレッジデザイン ~精神障害当事者が参加する授業~、日本社会福祉学会第59回全国大会(口頭発表)、2011年10月9日、淑徳大学千葉キャンパス

青木信雄・吉村夕里、認知症高齢者のスピリチュアリティの発露 ~ケア提供者の気づきのプロセス~、2011年度日本スピリチュアルケア学会第4回学術大会(口頭発表)、2011年9月4日、兵庫県看護協会会館

吉村夕里、社会福祉教育のナレッジデザインへの障害当事者の参画 ~車椅子使用者と協働する授業~、日本社会福祉学会第57回全国大会、2010年10月9日、日本福祉大学名古屋キャンパス

青木信雄・吉村夕里、介護現場におけるスピリチュアルケア、2009年度日本スピリチュアルケア学会学術大会(口頭発表)、2009年11月1日、聖トマス大学

美野喜則・田中広美・玉城栄之功・桑原陽・吉村夕里・青木信雄、暴言のみられる認知症高齢者への強みに着目したケアの効果：強みアプローチ前後の意識調査を通しての考察、第10回日本認知症ケア学会(ポスターセッション)、2009年10月31日、東京国際フォーラム

吉村夕里、社会福祉教育のナレッジデザインへの利用者の参画とコミュニティ形成に関わる研究、日本社会福祉学会第57回全国大会(特定課題セッション・口頭発表)、2009年10月11日、法政大学多摩キャンパス

〔図書〕(計1件)

吉村夕里、生活書院、臨床場面のポリテイクス：精神障害をめぐるミクロとマクロのツール、2010、263

〔その他〕

ホームページ等

研究成果報告(計1件)

吉村夕里、平成18年度~20年度科学研究費補助金(基盤研究C)報告書「ヒューマンサービスを共通基盤とする援助専門職等の現任者訓練に関わる研究」、2009、108(共著・監修)

ワークショップ等の開催(計5件)

吉村夕里(実行委員会代表)、認知症ケア研究会公開事例検討実行委員会、2011年

12月17日、京都文教大学指月ホール
吉村夕里（実行委員長） イベント「脱力
系フェスタ ～障害と病の祭典～」、2011
年5月12日、京都文教大学学生サロン
吉村夕里（実行委員会代表） 科研ワーク
ショップ「DVD教材と当事者の語りから考
える精神保健サービス現場の相互作用」
2010年6月12日、京都リサーチパーク
吉村夕里（実行委員会代表） 科研ワーク
ショップ「プレイバックシアター ～ケア
の受け手の語りから～」、2010年3月20
日、京都文教大学介護演習室
吉村夕里（実行委員会代表） 日本質的心
理学会大会外研究会企画 「サービス提供
場面の質的分析 ～障害当事者参画の試
み～」、2010年2月5日、京都文教大学指
月ホールおよび介護演習室

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉村 夕里 (YOSHIMURA YURI)
京都文教大学・臨床心理学部・教授
研究者番号：50388211

(2) 研究分担者

所 めぐみ (TOKORO MEGUMI)
佛教大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：00411281

(3) 研究協力者

佐々江 恵子 (SASAE KEIKO)
伏見ふれあい福祉会・ホームヘルプステーシ
ョンきらら・サービス提供責任者(2011年3
月まで)
渡辺 幸子 (WATANABE SACHIKO)
滋賀県成人病センター・リハビリテーション
科・臨床心理士
宮下 潤子 (MIYASHITA JUNKO)
滋賀県成人病センター・リハビリテーション
科・作業療法士(2010年3月まで)
木村 善男 (KIMURA YOSHIO)
京都頸髄損傷者連絡会・理事
小森 猛 (KOMORI TAKESHI)
京都頸髄損傷者連絡会・理事
羽鳥 恵一 (HATORI KEIICHI)
ワークネット京都・精神保健福祉士
小松 真佐子 (KOMATSU MASAKO)
京都国際社会福祉センター・臨床心理士
大谷 多加志 (OTANI TAKASHI)
京都国際社会福祉センター・臨床心理士
寺尾 健志 (TERAO TAKESHI)
京都文教大学・教務部教務課・職員
田坪 見希夫 (TATSUBO MIKIO)
映像作家